指導案　みんなの提案をみんなで評価してみよう

■基礎データ

|  |  |
| --- | --- |
| 大目標 | ＊＊＊PART4　評価を意識して発表を作る＊＊＊ |
| ステップ・タイトル | ステップ9 >>> みんなの提案をみんなで評価してみよう（第11・12回） |
| ねらい（学習目標） | ①グループワークにおける連関図法とは何かを知る  ②欠点ー改善点（課題ー対策）列挙法の方法を知る  ③ダメ出しを続けることが最終的に解決策になることのおもしろさと難しさを知る |
| 使用する技術 | ブレインストーミング法、親和図法、連関図法、欠点―改善点（課題―対策）列挙法、評価尺度法 |
| 受講者に与えるテーマ（例） | 「未来に関する事物・事象ならば、自由にテーマを決めてよい」  ※テーマを「自由」とする場合にも、一定の制限をつける |
| 進行 | ①導入・グループ分け・説明→②グループワーク→③全体発表・審査（各班発表３分）→④審査結果発表→⑤まとめ |
| グループ内の役割分担 | グループ内で役職を決める。メンバーは必ず何かの役職を担当するようにして、それぞれの役割で作業を進めるファシリテーター（1名）、サブファシリテーター（1名）、タイムキーパー（1名・人数が少ない時はサブファシリテーターが兼任）、デザイナー・エディター（数名）、プレゼンター（1～2名） |
| 用意する物品 | キッチンタイマー（全体時間管理）、A4 コピー用紙（各人２枚程度）、欠点－改善点（課題－対策）列挙法説明資料（A4・4枚、人数分）、ブレインストーミング説明資料（各班に数部程度）、他班評価シート（個人採点用）（人数分）、他班評価シート（班集計用）（班数分）、講義実施者・集計シート（1枚）（他班評価シートと講義実施者・集計シートは、8班を想定したもの）模造紙（各班3枚程度、一般的な大きさのもの）、水性ペン（黒、人数分（各人の筆記用具でもよい））、フセン（黄色（意見を書くカード）・ピンク（ピンクは分類時に使うタイトルカード）、黄色は各人30枚程度、ピンクは各班で30枚程度、大きさは縦横7.5cmのものでも、縦7.5cm×横5cmのものでもよい））、水性マジックセット（1班1 セット、8色程度が入ったもの）、セロハンテープ（1班1個、カッターに入ったものだと切りやすい） |
| 備考1 | ブレインストーミングによる親和図法・連関図法、欠点－改善点（課題－対策）列挙法という手法を学ぶだけでなく、審査結果発表後に、審査に値する成果物を作り上げることの難しさ、今回の結果がすべてではなく「本番」に向けての良い練習であること、他班の良い例を次回取り入れることの必要性について念押しする  ※「他人からの審査」「相対評価による比較」に慣れていない受講生もいる |
| 備考2 | 「収束技法」を中心に学習したい場合には、テーマを変えながら複数回のブレインス  トーミングや、様々な収束技法（STEP04の参考文献参照）を毎回実践してもよい。 |

■学習の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成 | 学習活動の内容 | 指導上の留意点 |
| 1.導入  （10分） | ⑴導入（10分） | それではみなさん、挨拶しましょう。おはようございます／こんにちは。  ※受講者にも発声させる |
| 前回のふりかえり  （実施した場合） | 前回は「SWOT 分析」という企業の現状分析などでもよく使われている手法を学びました。「ブレインストーミング」による発散技法と「親和図法」による収束技法という手順に、「SWOT 分析」という収束技法を取り入れることで、テーマ自身の現状や課題、戦略や対策などを考え出すことができました。 |
| 今回の要約 | 今回は、「ブレインストーミングによる親和図法・連関図法」をベースにしながら、「欠点－改善点（課題－対策）列挙法」という新しい収束技法を学びます。 |
| 2回連続の授業  （大学のような2コマ（90分× 2）にわたって実施する場合） | 今回も2週連続の授業です。1回目に説明を聞いた上で作業を行い、2 回目には残った作業と発表をします。1班につき、発表は3分です。そして今回は、作成した成果物や発表に対して、みなさんに審査をしてもらいます。2週間、がんばって作業してください。 |
| グループ分け | それではグループ分けをしましょう。グループに分かれる時には、荷物をもって移動してください。  ※グループの分け方は「STEP01 学習の流れ ①導入 グループ分け」参照  ※今回は、グループ内で役職を決めて、それぞれの役割で作業を進める。なお、本来はグループ内で役職を決めるが、初めは役職を指定し、役割を覚えてもらう形式でもよい。その場合は、トランプのマークや番号で指定する方法がやりやすい |
| アイスブレイク | グループに分かれましたか。まずはアイスブレイクをしましょう。  A4の紙を使って自己紹介をしてください。A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってください。  ※A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってもらう。こちらから配布するかたちでもよい  ※A4の紙を使った自己紹介については「STEP01 学習の流れ ④展開3」参照  ※アイスブレイクの説明が必要な場合は「STEP01 学習の流れ ⑤まとめ」参照  (10分程度のアイスブレイク後）おつかれさまでした。まだ終わっていないグループも、時間の関係でとりあえず終了してください。みなさん拍手をお願いします。 |
| アイスブレイク | グループに分かれましたか。まずはアイスブレイクをしましょう。  A4の紙を使って自己紹介をしてください。A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってください。  ※A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってもらう。こちらから配布するかたちでもよい  ※A4の紙を使った自己紹介については「STEP01 学習の流れ ④展開3」参照  ※アイスブレイクの説明が必要な場合は「STEP01 学習の流れ ⑤まとめ」参照  (10分程度のアイスブレイク後）おつかれさまでした。まだ終わっていないグループも、時間の関係でとりあえず終了してください。みなさん拍手をお願いします。 |
| 2.展開１  （15分） | ⑵欠点－改善点（課題－対策）列挙法を説明する | プリントを見てください。欠点－改善点（課題－対策）列挙法は、テーマの欠点・課題を思いつくままに挙げて整理した上で、改善点・対策を１つずつ考えていく方法です。「ここが良くない」「これが課題である」とダメ出しをしてから、「改善する余地はあるのか」「解決するためにはどうすればよいか」を具体的に考えていくために、具体的・現実的・建設的・実践的な意見やアイディアが多く出ます。  ※プリントの該当箇所を読みあげるかたちでもよい |
| 欠点－改善点（課題－対策）列挙法とは | 「欠点－改善点（課題－対策）列挙法」について説明をします。今日は、説明を全部終えてから、各班でファシリテーターを中心として作業をしてもらいます。プリントを引き続き見てください。  まずは、（1）の「テーマ」を決めましょう。人でも、会社・組織でも、地域でも、物や商品でも、サービスでも何でもかまいません。ダメ出しができるもの、さらに良くしたいもの、将来の伸びしろがあるものをテーマにしてください。 |
| 個人ワーク・グループワーク1の説明  テーマの欠点・課題を書き出して整理する | 次に（2）です。まずは個人ワークで、テーマの欠点・課題を黄色のフセンに書きます。どんなに小さな思いつきの欠点・課題でも、かまいません。  その後、グループワークで模造紙に貼りながら共有して、ピンクフセンやマジックを使って親和図法・連関図法でまとめます。模造紙は縦長に使って、欠点・課題だけで1 枚の模造紙にまとめます。これらは、これまでに学んできた「ブレインストーミングによる親和図法・連関図法」の手法を使ってください。 |
| 個人ワーク・グループワーク2の説明  テーマの改善点・対策を書き出して整理する | 次は（3）です。（2）の作業でまとめた欠点・課題（ピンクフセンレベルの内容）（図1）に対して、改善点・対策を考えます。こちらも、ブレインストーミングによる親和図法・連関図法の手法を使います。  まずは個人ワークで、挙げられた欠点・課題について、改善点・対策を黄色のフセンに書きます。どんなに小さな思いつきの改善点・対策でもかまいません。  改善点・対策を書く時には、（2）の作業で作成した欠点・課題のまとめ（図1）を、みんなから見えるところに置いて作業してください。  その後、グループワークで模造紙に貼りながら共有して、ピンクフセンやマジックを使って親和図法・連関図法でまとめます。模造紙は縦長に使って、改善点・対策だけで1 枚の模造紙にまとめます。グループワークでまとめる時には、欠点・課題と改善点・対策の対応関係は特に意識しなくて大丈夫です。テーマ全体についての改善点・対策というかたちでまとめてください。 |
| グループワーク3の説明  欠点・課題と改善点・対策との対応関係を考える | 次はプリントの（4）です。これまでの2つの作業で2枚の模造紙が完成したかと思います。  今度は、2枚の模造紙をテープ等でつなげて、欠点・課題のまとめと、改善点・対策のまとめを見比べながら、矢印でつないだり、マジックで書き込んだりしながら、対応関係を考えます。  図3のようにすべての要素を無理に対応させる必要はありません。図に書き込むだけではなく、新たな模造紙に水性マジックで文章・図表などでまとめてもかまいません。 |
| グループワーク4 の説明  行動計画・改善計画を提案する | いよいよ最後です。プリントの（5）を見てください。「欠点・課題」と「改善点・対策」の対応関係を検討したり、それぞれの改善点・対策の実現性や優先順位を評価したりしながら、最終的な行動計画・改善計画を考えます。時間があれば、新たな模造紙に、「行動計画・改善計画」などとタイトルを書いて、箇条書きなどでまとめてかまいません。 |
| 補足：ワークシートによる欠点－改善点（課題－対策）列挙法 | なお、図4 のようなワークシートを用いる場合もあります。①テーマ、②目標・理想の姿を決めた後、③課題、④対策について、四角の中にアイディア・意見を書いて、最後は、③と④で対応するものについて点と点を結ぶという方法です。 |
| 3.展開2  （90分） | ⑶メンバーの役職を決めて道具を準備する | 説明は以上です。役職が決まった後に、ファシリテーターを中心として、作業手順と内容を改めて確認してください。それでも不明な場合には、私に質問してください。 |
| メンバーの役職を決めて役割分担する | メンバーの役職を決めて役割分担します。これから3分ほど時間をとりますので役職を決めてください。メンバーは必ず何かの役職についてください。 |
| 各役職の説明 | 今回は「ファシリテーター」１名、「サブファシリテーター」1 名、「タイムキーパー」1 名、「デザイナー・エディター」2〜3 名、「プレゼンター」1〜2 名です。今回は3 分発表です。それでは始めてください。  ※各役職の詳しい内容・役職決定の際の注意事項は「STEP07 学習の流れ ③展開2」参照 |
| 道具の準備をする | 役職が決まったら、次に道具を自分の班に持っていきます。まずは模造紙（模造紙大の巨大ポストイットを使う場合には、それを貼るスチレンボードも）を1枚持っていってください。今回は3枚程度使いますが、必要となったら改めて取りに来てください。そして意見を書くための黄色いフセンを１人30枚程度なので3束（300枚）、また意見をまとめる時のタイトルに使うピンクのフセンを数十枚なので１束（100枚）、模造紙の内容をきれいにまとめるための水性の8色マジックセットを1つ、フセンをとめるためのセロテープを1つ、それとメモに使うA4の紙を人数分、班に持っていってください。なおアイスブレイクで使った黒の水性ペンはそのまま引き続き使ってください。あと「他班評価シート（個人採点用）」を人数分、「他班評価シート（班集計用）」を1部、持っていってください。今回は、発表の後、全員が他班の発表を審査して、班の中で集計して審査結果を取りまとめてもらいます。  ※各班道具を取り終えたことを確認する |
| 発表と審査 | 発表時間は○時○分から、各班、発表3分でお願いします。発表は、プレゼンターが発表してください。プレゼンターは決められた時間で発表できるようにストーリーを考えてください。  今回は、質疑応答がありません。その代わり審査があります。各班の発表後、発表した班以外の全員が「他班評価シート（個人採点用）」を使って審査をします。詳しくは発表時に紹介しますが、このシートを見てもらうと「内容の新規性・独自性」と「内容の充実性・網羅性」の2つの評価項目（STEP06で学んだ評価尺度）があります。  ですので、この2つの評価項目で高い評価を得られるように意識しながら、成果物作成や発表準備に取り組んでください。  ※評価尺度は「STEP06 学習の流れ ②展開1」参照 |
| 作業開始 | よろしいでしょうか。わからないところがあったら、私が各班をまわりますので、その時に聞いてください。今日の作業終了時間は○時○分です。それでは始めてください。  ※キッチンタイマーなどで時間を計る（終了時に音が出るものなどがよい）  ※時間管理は班にまかせる。必要に応じて「作業終了まで残り○分です」というかたちで周知する  ※発表は1 班から順番に行ってもよいが、ランダムにしたい場合には、作業中に各班のファシリテーターにトランプを引かせるなどして発表順番を決めてもよい  ※授業などで2 回以上にわたって実施する場合のインストラクションは、「STEP07 学習の流れ ⑥展開5」参照 |
| 4.展開2  （60分） | ⑷全体発表（60分） | おつかれさまでした、みなさん拍手をお願いします。それでは発表に移ります。1班から順番に発表してもらいます。  ※各班のファシリテーターにトランプを引かせるなどして発表順番を決めた時は、トランプの1番から発表させる |
|  | 発表の方法・注意事項 | 前に出て発表してもらいます。発表の時には、プレゼンターだけでなく、その班の人全員が、作成した模造紙を持って前に出てきてください。キッチンタイマーを3 分間にセットしますので、プレゼンターはスタートボタンを押して発表を始めてください。  ※発表時にはプレゼンターだけではなく、班のメンバー全員が前に出て「班としての発表」を演出した方がよい |
|  | 審査の方法・注意事項 | 今回は審査を行います。みなさん「他班評価シート（個人採点用）」を見てください。成果物と発表の内容について、みなさんに審査をしてもらいます。審査方法は、各班の発表が終わった後に、「内容の新規性・独自性」「内容の充実性・網羅性」についてそれぞれ100点満点で採点をしてください。自分の班は採点しないでください。そして全班の発表が終了した後、班の中で全員の採点結果を合計して、「内容の新規性・独自性」「内容の充実性・網羅性」について、自分の班を除いて、それぞれ1位～7位まで順位をつけてください。なお、集計された採点結果が同じだった場合でも、班内で話し合って順位が重ならないようにしてください。そして順位は「評価シート（班集計用）」にまとめて、これを班の審査結果として私に提出してください。私は、これを集計します。  ※8班を想定した時の説明。自分の班が採点できないので8-1＝7班分の順位（1位～7位）となる |
|  | 発表 | まずは1班です。メンバー全員、模造紙を持って、前に出てきてください。プレゼンターは、キッチンタイマーのスタートボタンを押して、始めてください。  （発表終了）  ありがとうございました。みなさん拍手をお願いします。みなさんは1班の成果物や発表の内容に対して、採点をしてください。  次は2班です。メンバー全員、模造紙を持って、前に出てきてください。プレゼンターは、キッチンタイマーのスタートボタンを押して、始めてください。  ※最後のプレゼンターまで発表する |
|  | 審査 | すべての班の発表が終了しました。  これから各班でメンバーの採点結果を合計してください。そして「内容の新規性・独自性」「内容の充実性・網羅性」について、自分の班を除いて、それぞれ1位～7位まで順位をつけてください。なお、合計した得点が同じだった場合でも、班内で話し合って順位が重ならないようにしてください。そして順位は「評価シート（班集計用）」にまとめて、これを班の審査結果として私に提出してください。  ※8班を想定した時の説明。自分の班が採点できないので8-1＝7班分の順位（1位～ 7位）となる |
|  | 集計方法（授業・研修実施者） | ※各班から「他班評価シート（班集計用）」が提出されたら、「授業・研修実施者・集計シート」の該当箇所に順位を記載していく  ※シートについて「1班評価」の右の四角には、他班からの1班の評価の順位を書く。同様にしてシートをうめた後、「左7 班の合計」欄に7班分の順位点の合計を書く。最後に「総点」欄に順位点を書く  ※シートの使い方が難しい場合には、シートを使わず独自に集計してもよい |
|  | 審査結果発表 | みなさん、おまたせしました。集計が終わりました。ただいまから順位を発表したいと思います。  まず「内容の新規性・独自性」について発表します。第３位は○班です。みなさん、拍手をお願いします。  ※第3位から発表する。全班の順位を発表してもよい  ※内訳などについて、たとえば下記のように紹介してもよい。「○班は、他班からおおむね高評価をもらっていて、1位をつけていた班も○班ありました」  ※同様に「内容の充実性・網羅性」「2つをあわせた総合順位」を発表する  以上で審査結果の発表を終わります。みなさん、もう一度、拍手をよろしくお願いいたします。 |
| 5.まとめ  （5分） | ⑸まとめ（5分） | 今回は「欠点－改善点（課題－対策）列挙法」について学び、成果物・発表内容についてみなさんに審査もしてもらいました。  ※数人から感想を尋ねてもよい  ブレインストーミングという発散技法に、親和図法と「欠点－改善点（課題－対策）列挙法」という収束技法を加えると、具体的な改善点・対策について明らかにすることができます。  ※受講者が学生や新入社員ならば、必要に応じて下記にもふれるそして今回は審査もしてもらいました。「他人に評価される」ことを踏まえて、成果物や発表を作り上げることは難しかったかと思います。  経験を積んでいくうちに技術も向上していきますので、今回の結果に一喜一憂せずに、「本番」に向けての良い練習だと受け止めてください。あと、成果物・発表を見ていて「この成果物は良いな」「このような発表はわかりやすいな」という他のグループの良い例を、次のグループワークや発表に取り入れて、さらなる技術向上を図ってください。みなさん、おつかれさまでした。 |

■評価ポイント

1．グループワークにおける連関図法とは何かを知る

2．課題解決列挙法の方法を知る

3．ダメ出しを続けることが最終的に解決策になることのおもしろさと難しさを知る

■特記事項

・欠点－改善点（課題－対策）列挙法は、欠点・改善点に対し「改善する余地はあるのか」「解決するためにはどうすればよいか」を具体的・現実的・建設的・実践的に考えていく手法である。本手法を習得するために、テーマを変えながら数回行ってもよい。

複製・加工等ご自由にどうぞ